



「トキ野生復帰2015シンポジウム」が開催されました

これまでのトキ野生復帰を振り返り、次の目標に向けた佐渡の役割等を広く発信しようと、11月22日(日)、環境省、新潟県、佐渡市の主催で「トキ野生復帰2015シンポジウム」が開催され、会場となったあいぽーと佐渡には、関係者や市民など約240人が集まりました。

現在、佐渡の自然下においては、約150羽のトキが生息しています。トキ保護から放鳥、そして自然下での定着へとトキが増えてきたのは、市民の皆さまの努力によるものとして、環境省から感謝状が贈られる場面もありました。



環境省から感謝状

基調講演では、トキ野生復帰検討会座長の尾崎清明氏が「トキ野生復帰のこれから」と題して、今後の目標達成にはトキの餌場環境の確保が重要と話し、また、日経BP社生物多様性プロデューサーの藤田香氏からは「トキのいる佐渡への期待」と題して、トキを活用

しつつ佐渡をどのように発信していくのか提案をいただきました。

パネルディスカッションでは、5人のパネラーにより「全国へ向けた佐渡の役割と可能性」をテーマに討論が行われ、市民を代表するパネラーからは、活動を通して感じているさまざまな課題や今後期待することなどがあげられました。また、都市部では「トキ」は有名でも「佐渡」はまだよく知られていないことから、今後は、佐渡の暮らしを積極的に紹介していく中で、トキが登場してくるような情報発信の工夫が必要との意見も出ました。



パネルディスカッション

会場を訪れた方は、これからのトキとの関わりについて関心をもって聞き入っていました。今後も引き続き、トキの野生復帰について皆さまのご理解とご協力をお願いします。

◆市役所農林水産課生物多様性推進室トキ政策係(トキ交流会館内)

☎24-6040



佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記

緑色凝灰岩と人の暮らし

前号で紹介したように、佐渡には緑色が特徴の岩石(緑色凝灰岩)がたくさん産出します。

特に、相川の海岸でよく見られ、石の階段や古いお墓などに利用されています。相川大浦地区にある石仏は、海岸の緑色凝灰岩を使って作られていることがわかります(左下写真)。

緑色凝灰岩は、大昔の火山活動によって噴き出た火山灰や岩の破片、軽石などでできています。写真中の石仏に見られる白い粒は、軽石です。そのため、溶岩が冷えて固まってきたる岩石よりも柔らかく、軽いため、採石の際は切り出しやすい石材でした。その反面、風化しやすく、しみ割れなどが発生しやすいという特徴もあります。写真の石仏を見ると、輪郭は残っていますが、表情は風化してよくわからなくなっています。

相川地区の石段や、外の流し場をよく見てみてください。緑色(表面は汚れて黒っぽくなっているものが多い)で白い粒や、ピンポン玉大の岩片が入っていたら、それが緑色凝灰岩です。



相川大浦の石仏

緑色凝灰岩があるということは、大昔に活発な火山活動があったことを示しています。海の底で作られた岩石が、現在の海岸線で見られるということは、佐渡島や日本列島が隆起したことを表しています。それらの岩石が切りだされ、生活の中でさまざまな用途として利用されているという繋がりを、ぜひ感じてみてください。人の生活を覗くと、佐渡島のなりたちだけでなく、日本列島の歴史までわかってしまうのです。

◆教育委員会社会教育課

ジオパーク推進室(両津支所内)

☎27-4185